

2020年度の維持管理活動

【ご注意】

本資料は、生態系保護の観点から生物の位置に関わる情報などは非表示としています。
ご了承下さい。

巡視結果

●2/26（金）の13:30～16:00に、堂本委員長及び運営事務局による自然再生地の巡視を行いました。結果の概要は以下の通りです。

1) 以下の箇所については、維持管理作業を省力化して良いと考えられました。（今回委員会で検討）

(1) 上池モトクロス場跡地整備地Aのハリエンジュについては、これまでの管理で再発生が抑制されていると考えられました。

(2) 下池ハンノキ移植地（ミドリシジミ観察会会場）では、これまでの管理でシンジュの再発生が抑制されていると考えられました。

2) 以下の箇所については、維持管理作業の重点化・新規実施が必要と考えられました。（今回委員会で検討）

(1) 上池旧流路整備地やモトクロス場跡地整備地Dで、オオカワヂシャの繁茂の拡大が抑制出来ていないと考えられました。

(2) 上池モトクロス場跡地整備地Aについては、法面がオギに覆われ、目標種が生育できない状態になっていると考えられました。

目標種の再生や導入について、まずは試験を行った上で、将来的には地域連携で進めることが考えられます。

(3) 下池ハンノキ移植地（ミドリシジミ観察会会場）では、アレチウリ・クズの管理が必要と考えられました。

3) 以下の箇所については、当面は見守る方針が妥当と考えられました。（当面見守り）

(1) 下池のサクラソウ移植候補地については、中池での取り組みが進捗するまでは見守ることが妥当と考えられました。

(2) 下池整備地については、移植に適した幼木が無く、水面も形成されていることから、当面は見守ることが妥当と考えられました

4) 以下の箇所については、協議会として取り扱いを検討する必要があると考えられました。（次回以降の委員会で検討）

(1) 中池の不法釣り座の設置範囲が拡大し、水鳥等への影響が懸念される状態でした。

すでに使用されていないと想定される自然再生地側（旧流路の右岸側）の釣り座について、「撤去するデモンストレーション」をするなどの案が考えられます。

(2) 下池については、ハンノキの幼木が発生できていないと考えられました。

種子採取からの苗木育成など、幼木確保の方法を考える必要があります。

(3) 下池の仮置き土砂の搬出跡地の管理方針設定が必要と考えられました。

面積が広いため、乗用草刈り機が保有できればこれで現状を維持し、地域連携により少しずつ在来植生の再生を進めることが考えられます。



巡視の実施状況

巡視結果

1) (1) 上池モトクロス場跡地整備地Aのハリエンジュは抑制



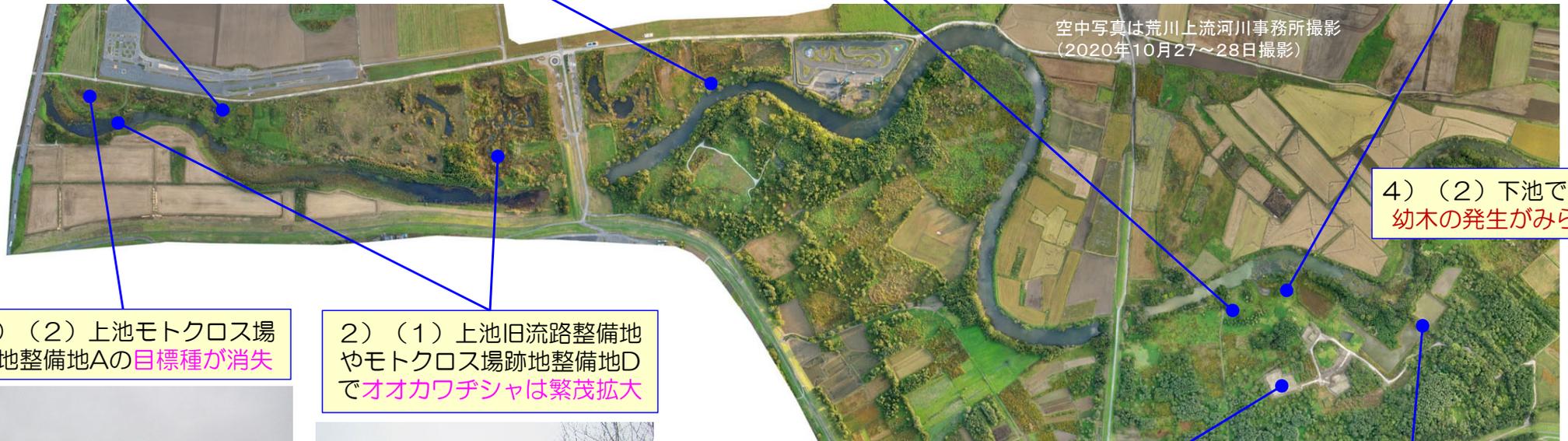
4) (1) 中池で不法釣り座・係留設置範囲が上流側に拡大



下池ハンノキ移植地は
1) (2) シンジュは抑制
2) (3) アレチウリ・クズの管理が必要



3) (1) 下池サクラソウ移植候補地は当面見守り



2) (2) 上池モトクロス場跡地整備地Aの目標種が消失



2) (1) 上池旧流路整備地やモトクロス場跡地整備地Dでオオカワチシャは繁茂拡大



4) (2) 下池でハンノキ幼木の発生がみられない

4) (3) 下池仮置き土砂搬出跡地の管理方針が必要



3) (2) 下池整備地は当面見守り



【参考1：オオカワヂシャの繁茂状況】

2020.5の結果

旧流路整備地

モトクロス場跡地D整備地

非表示

【参考2：目標種の経年出現状況】

2020.5の結果

モトクロス場跡地A整備地

春季

2020.5の結果

非表示